

上海市档案馆訪日視察団の来館について

国立公文書館 統括公文書専門官室

平成16年10月5日、馬長林副館長を団長とする上海市档案馆視察団が来館した。来日したのは馬副館長のほか、王晓華档案局档案学会办公室主任、樊黎文利用サービス部副主任、徐非整理編目部副研究館員、沈志英安全保護部科長、李成寅情報技術部副科長、黄勇档案保管部副科長の総勢7名。一行は、上海市・大阪市友好都市提携30周年を記念して、大阪梅田で開催された写真展「上海の風情」の準備と開幕式典参加のため、大阪市の招きで来日し、来日中沖縄県公文書館、大阪市公文書館、及び当館を訪問した。

上海市档案馆と当館は、近年相互交流を続けており、昨年11月に中国杭州で国際公文書館東アジア地域支部総会が開かれた際、当館菊池館長等が上海市档案馆を訪問し、同じ11月に上海市档案馆劉南山館長一行が当館を訪問、さらに今年4月の上海市档案馆新館開館式典の際は、当館大濱理事等が招待を受けて出席、理事が記念講演を行っている。

当日は、菊池館長、大濱理事、石井アジア歴史資料センター長等が一行を迎え、ビデオによる当館の紹介、高精細画像システム実演、アジア歴史資料センターのプレゼンテーション、施設案内等を行った。馬副館長は、意見交換の場で、上海では新しい法令により公文書をリアルタイムで公開していかなければならなくなり、IT技術を駆使していかに早く市民に情報を提供できるかが課題となっている、現在は市民サービスを充実させ、档案馆と市役所の連携を深めることに最も力を注いでいる、と述べた。また、4月に開館した档案馆新館の展示については、生活史に密着した資料を所蔵していなかったため、購入と寄贈により苦勞して展示資料を新たに収集した、今後も若い人々にも魅力のある展示をめざしており、次回は文化革命時代の展示を企画している、とのことだった。このほか、デジタルアーカイブ、電子文書の原本性、電子政府化に伴う文書保存の問題などについて、活発な意見交換が行われた。